

令和6年度第1回史跡根城跡整備活用検討委員会 議事録

日時 : 令和6年10月4日(金) 10:00～12:00

場所 : 八戸市博物館体験学習室・史跡根城の広場

出席者

委員

出席5名 工藤竹久委員長 北野博司副委員長 熊谷隆次委員
倉原宗孝委員 宮野則彦委員 野沢浩司委員

事務局

社会教育課 渡参事
博物館 小保内館長 佐々木副館長 市川主査 中村専門員
設計支援 有限会社ウッドサークル

次第

1. 開会
2. 委嘱状交付式
3. 教育長挨拶
4. 委員長・副委員長選出
5. 会議
 - (1) 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画について
 - (2) 史跡根城環境整備事業の進捗について(現地視察)
 - (3) その他
6. 閉会

会議資料

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 委員名簿
八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 席図
資料1 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画
資料2 史跡根城跡環境整備事業の進捗について
八戸市博物館条例抜粋・八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会規則

当日資料

博物館作成 史跡根城跡見学マップシート『根城跡って、どんなところ?』

5. 会議

(1) 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画について

・令和5年度事業報告 史跡根城跡見学マップシート

- 倉原委員：面白い形のパンフレットですが、これはよくあるものなののでしょうか。また、シートに穴が開いていますがこれはどのような狙いがあるのでしょうか。
- ◎事務局：全国で見れば前例のある仕様です。シートの穴は持ち歩きをしやすいように手提げとして使えるように開けたものです。

・令和5年度事業報告 本丸大銀杏樹勢回復処置

- 北野委員：宮野先生にうかがいます。樹勢が回復したという効果を確認できる指標はあるのでしょうか。根城の大銀杏は三ヶ年計画で樹勢回復処置を行うようですが、モニタリングの仕方や期間などについて、なにか手法があるのなら教えていただきたいです。また、三年程度の処置で効果はあらわれるのでしょうか。
- 宮野委員：私の専門とは若干違う話なので、きちんとした回答にはならないのかもしれませんが、樹勢が回復したかどうかを確認する指標の一つに、葉の大きさや葉の色を観察するという方法があります。すぐに効果が出るとは思いませんが、年ごとの葉を観察するという方法は有効でしょう。
- ほかに、現在も大銀杏の周囲を立ち入り禁止にしているようですが、これは継続した方が良いでしょう。地面をあまり踏みつけないようにすることは重要です。
- 北野委員：ありがとうございます。樹木匠さんにお任せにするのではなくて、処置を行ったことで、どのような効果があるのか、あるいは無かったのかを定量的に確認できるような、モニタリングの仕方を考えていただきたいです。
- ◎事務局：承知しました。

・令和5年度事業報告 SNSによる広報情報発信

- 北野委員：こういう情報発信についても累積して比較することは大事だと思います。もし可能なら、次回以降の会議では、前年度比だけではなく、数ヶ年分の数字をグラフなどで比較できると、社会状況などとの関係も見やすくなると思います。
- ◎事務局：承知しました。

・令和6年度事業計画 本丸主殿改修基本設計

- 宮野委員：主殿の中にデータロガーを設置したというお話しですが、これはどのような機器なのでしょうか。また、設置の狙いもはっきりしているようなら教えてください。なんのための測定なのかや、どのような数値が出たら異常と考えるのか、

あるいはデータは誰が分析するのかなどの想定をお聞かせください。

◎事務局：データロガーは今年の7月から設置しました。電池式の小型のもので、測定できる数値は温度・湿度です。設置台数は5台で、このうち4台を主殿に設置しました。測定の狙いは、小屋裏の温湿度環境の確認と、屋内の復原展示に関する影響の分析で、データの分析は館職員が行うという想定です。

前者は、小屋裏に結露が発生しないかどうかを調べるのが目的です。今回の主殿改修工事では、小屋裏の見え隠れに、耐震補強用の金属製の水平ブレースを入れる予定です。この工法をご説明したところ、宮野先生からブレースに結露が生じ、水滴で木材が腐朽するのではないかというご指摘をいただきました。小屋裏に設置した1台は、この危険性を調べることを目的としたものです。

後者は、屋内の復原展示や復原建造物の長寿命化を目的としたものです。現在主殿の木製建具には、夏になると白カビが出ます。これはどのような条件で発生するのかを検討するためにデータが必要だと考えました。また、主殿内には原寸大の復原遺物や人形・衣装もありますが、これらも今回の改修で更新したいと考えています。

更新に際しては、より耐久性のある復原展示にしたいと考えていますが、これを検討するためにも測定が必要だと考えました。

○北野委員：わかりました。温湿度測定をするというのは大変良いことです。この成果をぜひ活かしていただきたいと思います。カビや結露など、表面的に見える変化の観察も必要です。他に例えば木造の建築であれば温湿度の変化を木材が吸収してくれるので除湿効果がある。そういう意味では目に見える変化には出にくいわけですが、一方でそれが最終的には木材の劣化に繋がります。こういうことを分析するためには表面的な温湿度の数値を取るだけでなく、やはりそれを専門としている方に環境調査をしていただかないといけないと思います。物理的な課題が何なのかを整理し、それを改善するためにはどのような数値・分析が必要なのかを考え、測定を行ってください。また、建物や展示の長寿命化を考えるのなら、結果の分析は外部の方に依頼する必要もあると思います。

◎事務局：ありがとうございます。二ついただいたご意見に順に回答します。

一つめは目に見える変化以外の内容についても分析すべきであるというご意見についてです。主殿の木材に関して言えば、令和4年度に行った耐震診断の際、含水率や腐朽の有無などの調査は行っています。また、令和7年度には主殿改修工事の実施設計を行います。ここでもう一度調査し、必要ならば改善を検討します。今回設置したロガーでは、これらの数値は分かりませんが、別途必要な調査を行う際には、これらのデータも取り、比較したいと考えています。

二つめは分析を専門家に依頼した方が良いのではないかというご意見です。これ

はおっしゃる通りです。あるいは測定方法や機器選定の段階から有識者の所見をいただくべきだったのかもしれませんが。物理的な課題の整理も含め、検討します。

○北 野 委 員 ：わかりました。

それともう一つ。以前の会議で、今回の改修の内容を文化庁復元検討委員会で報告するという話がありました。これは今年度報告をするという考えでしょうか。

◎事 務 局 ：文化庁からは実施設計の内容がまとまった段階で相談してほしいという指導をいただいています。実施設計は再来年度と考えていますので、文化庁復元検討委員会での報告は、令和8年度になる想定です。

○北 野 委 員 ：わかりました。根城では当初整備から30年が経ち、第2期目の整備に入ったわけですが、近年の文化庁の議論を聞いていると、自治体には補助事業として遺跡整備を出来るのはこれが最後であるという説明をしています。もし次回の改修がある場合は、市単費で行っていただくという説明をしています。

そういう意味でも復元検討委員会に出す資料は、長寿命のためにどのような変更をしたのかや、改修後のメンテナンス計画の内容や効果を説明できる資料でなければいけません。根城に先んじて第2期整備を行っている箱根関所や佐渡奉行所の設計では、これらの視点が明確です。また、文化庁もこのような考えを求めてくると思います。根城でも今後設計を進め、復元検討委員会の説明資料を作成されると思いますが、この二つの視点をしっかり入れて、進めていただければと思います。

◎事 務 局 ：承知しました。

・令和6年度事業計画 史跡根城跡地形測量等業務委託

○北 野 委 員 ：補助事業で未測量の西ノ沢地区の測量を行うようですが、この方法とデータのモデル化などのことについて教えてください。

◎事 務 局 ：まず史跡根城の広場の地形測量の進捗についてご説明します。次にご質問いただいた今回の測量手法について回答します。

まず、測量の進捗についてです。広場の測量は既に一度行っており、公有化範囲の6割程度は測量済みです。これは令和2年度に第2次整備計画を作る際に行ったもので、遺跡の6割程度、具体的にいうと現在公園利用している東構から本丸までの遺跡北側の範囲の測量をしました。この範囲を優先して測量した理由は、ここに殆どの復原建造物と便益施設が集中しているからです。この範囲を測量しておけば、第2次整備工事の図面にそのまま転用できるという狙いもあり優先しました。この年の地形測量は、一般的な精度の高い基準点測量、復原建造物や便益施設・案内板などの位置出し、樹木の位置出しと樹種特定という内容です。植物調査を行った理由は、将来樹木の管理計画・伐採計画を作る際に情報が必要だと考えたためです。

次に今回の測量についてです。測量の範囲は西ノ沢と呼んでいる史跡西端の地区です。現時点で未測量の範囲は公有地の4割程度ですが、今回の測量でそのうちの半分程度の測量を完了する形になります。次になぜこの西ノ沢地区の測量を進める必要があったのかです。これは同所の樹木の伐採計画を作成したいという考えがあります。今年の夏に、西ノ沢の急斜面に生えている高木二本が倒木しました。今後も同様の危険性があるため、同所の測量を進め、伐採計画を作成したいと考えています。測量の手法・精度は令和2年度の測量と同内容と考えています。これは、調査手法や精度を変えると、前回測量したデータとの継続性が無くなると考えたためです。過年度会議では北野委員から、根城は城館遺跡なので、将来的には3Dデータというか地形モデルも作れるような測量をして、活用に繋げることも検討すべきであるというご意見もいただいています。このご意見も頭にありましたが、測量成果の継続性と予算の都合を優先し、断念しました。

○北野委員：わかりました。同じ趣旨ですが、今はドローンを使わなくても三次元測量はできます。フォトグラメトリなどで簡単に三次元測量が出来るので、地上測量の予算があれば十分全域をカバーできるので、次回をご検討ください。活用面を考えれば三次元データもあった方が良いでしょうが、今回はこれまでの継続性を重視したということですね。因みに、残り2割の未測量の範囲も、今後同じ方法で測量をするという考えでしょうか。

◎事務局：将来的には測量が必要だと考えています。未測量の範囲は国道の南側にある沢里館や岡前館と呼んでいる地域です。こちらはまだ私有地も多く残っていますので、公有化が進んでからまとめて測量をしても問題が無いと考えています。

○北野委員：わかりました。ぜひいずれ三次元データが測量できるようにチャンスを狙っていただきたいです。

それと伐採についてですが、以前基本計画を作ったときに、全体の植生管理方針についてある程度定めていたと思います。支障木や危険木は伐っていく、あるいは視点場というか眺望や景観のために重要なところは伐っていくというように整理をしていたと思います。こういう計画にある全体の管理方針と今回の伐採の内容が整合するような説明を是非考えてください。

○工藤委員長：整備基本計画に全体の植栽管理計画はありますか。

◎事務局：植生管理の項目はありますが、具体的な記述ではありません。「樹木の成長に合わせ適宜伐採する」という程度の簡単な記述です。明確な視点場の設定や、景観優先地域の設定などもししていません。

○工藤委員長：そうですか。もう少し内容を充実させる必要がありますね。

○北野委員：植生管理計画を作っていただけるのが一番良いのですが。

◎事務局：伐採計画を作るにあたっての検討は始めています。あるいは北野先生がおっしゃる通り、植生管理計画を作ってしまった方が、事業を進めやすいのかもしれませんが。こちらについても検討させていただきます。

○北野委員：わかりました。

・令和6年度事業計画 小中学生のための城歩き講座「お城へ行こう！」

○工藤委員長：何年も根城と三戸城の間でイベントをしていますが、そろそろ三戸城の以外の城を対象にすることも検討した方が良いのではないのでしょうか。三戸城は中世の匂いが残る近世の城ですが、盛岡城などは完全な近世城郭です。子どもたちにも中世の城と近世の城の違いを分かりやすく伝えられるのではないのでしょうか。

◎事務局：現在は根城を安土桃山時代の土の城の代表、三戸城を江戸時代の石の城の代表として紹介しています。講座の内容は、ただ遺跡を歩くだけではなく、実際の出土遺物に触っていただくなど、毎年内容を見直しながら進めてまいりました。今後は三戸城以外のお城でも講座が可能かについて検討をしていきたいと思っています。

・令和6年度事業計画 活用ワーキング会議

○倉原委員：先ほど話題にあがった広場内の植栽管理計画とも関係する話ですが、活用ワーキング会議の内容について確認をさせて下さい。

今年度も活用ワーキング会議に参加させていただきました。この会議の中で、根城薬草園のストーリー性という話題が出ました。話題提供をしていただいた内藤記念くり博物館附属薬用植物園では、植物園設立時に薬草園の目的を設定していて、これに準じて植物の選定や管理を行っているというお話しでした。一方で根城の薬草園には設立趣旨のようなものが無いということで、これがあると今後の管理・活用がしやすいのではないかという検討がありました。今日のお話しをうかがっていて思ったのですが、広場の植栽管理計画策定だけでなく、薬草園に関してもなんらかのストーリーを与えられれば、より良い活用・管理に繋がるのではないのでしょうか。

◎事務局：第2次整備計画では、薬草園について項目立てて触れていません。つまり、現状の課題の抽出も、今後の整備方針の展望もしていません。ですので、今後広場内の植生管理計画を作る際に薬草園についても項目立てし、管理・活用の方針を決める必要があるのかもしれませんが。今後は根城の薬草園でもきちんとコンセプトを設定し、これに則って管理・活用を考えていく必要性を感じています。

○倉原委員：わかりました。

（２）史跡根城環境整備事業の進捗について（現地視察）

・東構跡 土系舗装

◎事務局：これから現地をご案内いたします。令和２年度から第２次整備を始めておりますが、その中の代表的な工事成果や、今後予定している主殿改修工事の内容を中心にご紹介いたします。

まず令和３年度に実施した土系舗装をご紹介します。以前この周辺は盛土の上にプラスチック製の芝保護材を敷き、これを園路としていました。しかし、この芝保護材は冬になると凍上し、浮きや破損が目立つことから、仕様変更を検討し、結果この土系舗装を採用しました。この舗装は、真砂土などの砂質土に結合剤を混ぜ、固化させるものです。歩くと実感できると思いますが、柔らかい質感で来場者からも好評です。因みに同年の工事では、固い質感の舗装と柔らかい質感の舗装の二つの工法を試しました。これは将来本丸内の園路更新などを行うにあたり、どのような工法が適当なのかを検討するために試験的に実施したものです。

○北野委員：表面は凍りませんか。

◎事務局：凍ったり剥がれたりということはありません。建物からの雨落ちの部分は多少変色していますが、固い舗装は、あまり劣化・汚損していません。

○倉原委員：同じ舗装でもいくつか工法があって、それを比較するというのは良いことだと思います。柔らかい舗装の方には問題はありませんか。

◎事務局：柔らかい舗装はこの環境に適していなかったようで苔が生えています。感触は一般の地面より少し硬いという程度で、車椅子での移動には不向きです。

◎設計支援：ここは中性固化材を使用しました。土をきちんと固める舗装ではなく、土粒子自体を団粒化、つまりダムにさせるものなので、透水性があります。グラウンド舗装のようなものなので、割れるということもありません。土系舗装もさまざまありますが、薄く施工できるという強みもあります。将来的に本丸内の舗装更新も検討されるそうですが、盛土を深く掘削しないという意味でも効果的だと考えています。厚さは固い方が１０センチ、柔らかい方が４センチです。この柔らかい方は割れることはありませんが、固い方は割れることもあります。

○北野委員：苔はすぐ生えましたか。

◎事務局：２年目から生えました。雪が溶けた春から生えてきました。

◎設計支援：塩化カルシウムを撒くとアルカリ性になるので、苔は生えにくくなります。二年に一回程度、撒けば苔も生えませんし、長持ちすると思います。

・東構 旧八戸城東門屋根改修

◎事務局：次に参ります。こちらが市指定文化財旧八戸城東門です。広場のエン

トランスとして移築された近世の門ですが、昨年屋根替え工事を市単費で行いました。過年度会議でもご報告した通り、改修前は板葺屋根でしたが、今年の改修で銅板葺きに変更しました。変更の理由は、改修前段階で板葺屋根が中古であり、既に当初の情報が失われていたためです。他に、長寿命化の面でも銅板に改めるのが妥当であるという考えから、市文化財審議委員会の承認を経て、変更しました。

・東善寺館跡 注意・禁止看板

◎事務局：広場内の禁止事項を案内する看板を令和４年に作りました。これまで広場内の禁止事項は明文化されておりました。この看板設置に合わせ、館内で協議し、禁止事項を定め、看板を設置することで周知しました。また、これらの情報は、館のホームページにも掲載をするようにしました。

○工藤委員長：看板設置の効果はありましたか。

◎事務局：自転車の乗り入れや、ペットの入場は明確に減りました。そういう点では効果を感じています。また、広場の管理職員からは、看板があるので来場者に注意をしやすくなったという意見もいただいています。

○野沢委員：英語や韓国語表記もあった方が良くないでしょうか。

◎事務局：英語表記も検討しましたが、文字数に限りがあるため一目でわかるアイコン表示にしました。今後、案内板・解説板を改修する際には検討します。

・東善寺館跡 虫害

◎事務局：今年広場の管理で困っているのが蛾の大量発生です。アメリカシロヒトリという蛾が大量発生し、広場内の落葉広葉樹の葉を食べています。６月から９月上旬の期間は広場中が毛虫とそのフンだらけになり、多くの苦情がありました。

○北野委員：山形でも出ますがその場合は、町内会で一斉に薬を撒きます。どこか一か所だけ薬を撒いても他のところに逃げるので効果が出ないのです。

◎事務局：広場だけでなく、この近隣でも被害が出ています。広場だけに薬を撒いても抜本的な解決にはならないと感じていました。今年が被害初年度だったので、これから数年は被害が続くかもしれません。

・本丸跡 木橋

◎事務局：木橋は第２次整備計画開始に先立ち、平成３０年度に改修工事を行いました。橋桁などが腐朽し、危険だったため、改修前の数年は橋を通行止めにした。おかげさまで改修が済み、来場者用の園路として活用しています。

・本丸跡 北門・板塀 1

◎事務局：ここでご覧いただきたいのは門と板塀の色です。第2次整備で行った木工事では木材に塗る保護塗装の色を合わせるようにしました。このため、別年度に工事をした建物でも違和感なく自然に退色していることがわかると思います。当初整備後の木工事の改修では、改修した建物が古く見えるようにあえて保護塗装を黒色にし、古色風に見せていました。しかし、具体の塗料を指定していなかったため、同じ黒でも建物ごとに色のばらつきが生じ、とても不細工な状況でした。これを改善するために第2次整備では、保護塗装を指定し、色を揃えました。第2次整備では透明の保護塗装を塗るだけにしています。

○工藤委員長：板塀は他にもありますが、それらの工事は進んでいますか。

◎事務局：未着手のものもあります。ただ、文化庁からは防災設備工事と主殿改修工事が終わってから、それ以外の建物の改修を考えて欲しいといわれています。

○北野委員：板塀の工事は今後も続くと思いますが、実験的な意味でも今後は設計を変えて色々試してみても良いと思います。長寿命化という観点では、どのような工法が適当なのかを調べてみても良いと思います。板塀は第2次整備の工事では何か長寿命化対策をしているのでしょうか。

◎事務局：柱の地際に銅板を巻くようにしました。設計変更という意味では、今後は笠木に銅板を葺いても良いのかもしれません。

○北野委員：そうですね。そういう実験をしても良いと思います。

○倉原委員：たしかに改修していない塀は色が揃っていませんね。細かいことですが色を合わせるのは大事ですね。

・本丸跡 主殿台所

◎事務局：主殿をご案内します。主殿は今年から三ヶ年で設計を行い、令和9・10年の二ヶ年で建築と展示の改修工事を実施する予定です。建築改修工事の内容は屋根替え・耐震補強・長寿命化対策です。展示改修工事の内容は現在の研究状況に合わない展示の更新です。

主殿は竣工し約30年経過した掘立柱建物です。現時点で構造材に目立った損傷はございません。掘立は構造的に強いようで、地震が来ても土壁に少しクラックが入る程度です。ただ板葺屋根は老朽が進んでおり、雨漏りが確認されるようになりました。この北側の桁をご覧ください。四間分の桁の側面に雨染みがみられますが、これは雨漏りの痕跡です。3年前から冬に屋根に雪が積もると雨漏りをするようになりました。梅雨の時期や台風の時期は大丈夫なのですが、屋根に雪が積もっている状態になるとじわじわと雨染みが出ます。現在、主殿で雨漏りが確認されるのはここ

だけです。この台所部分の屋根は構造的には孫庇に相当します。主殿全体で一番弱く、雨漏りをしやすい端の部分にあたりますので、これを放置しておくより中央に近い庇部分や身舎部分も雨漏りするようになります。現時点で来場者や復原展示に被害はありませんが早急に屋根替え工事を済ませたいという状況です。

○北野委員：当初工事ではルーフィングを入れていましたか。

◎事務局：入れていません。屋根の谷・棟・軒先の見え隠れに銅板を入れているだけで、他には現代材料は使っていません。

○北野委員：屋根の劣化は感じられますか。この雨漏りはどこから来ているのでしょうか。

◎事務局：周辺の化粧垂木や裏板に雨染みが見られないので、この桁の直上から軒先までの範囲が老朽し、水を通していると考えられます。

また、この雨漏り部分だけでなく、屋根全体が劣化しています。外に出た時にご確認いただきたいのですが、屋根全体に苔が目立つようになりました。私は、避雷設備の点検のために屋根に登ったことがあります。その時も歩くと葺板の上面がザクザクと崩れるような状況でした。特に北面の屋根は雪が溶けるのが遅く、総じて劣化の進行が速く感じます。雨染みが見られる台所の孫庇も建物の北端にあたります。

今回の改修では見え隠れにルーフィングを入れるなどし、長寿命化を図る予定です。

○北野委員：そうですね。中馬屋の改修では見えないようルーフィングを入れたというお話しでしたが、主殿でも同じような工夫をした方が良くと思います。

・本丸跡 主殿縁

○工藤委員長：板壁や戸の隙間も目立つようになりましたね。

◎事務局：板の反りや釘の浮きは目立つようになりました。釘の浮きは気づいたら直すようにしています。ただ、これもポジティブに考えると、冬はこんなに寒かったんだとか、屋内はこんなに暗かったんだなということを体感できる良い復原だと思います。現代の遺跡整備ではバーチャルリアルが流行っていますが、根城のこの建物は原寸大で中世のスケール感や光・温度などをリアルに体感できる特別な事例です。改修後も、その特徴は活かしていきたいと考えています。

○北野委員：そうですね。

・本丸跡 主殿二ノ間

◎事務局：この部屋を二ノ間、隣の部屋を広間と呼んでいます。この建物の中で一番良い部屋が広間、そして二番目に良い部屋が二ノ間と解釈し、八戸家当主とその家臣らが正月十一日の儀式を行っているという設定で復原展示をしています。最

も身分の高い当主や高臣は隣の一番良い部屋で儀式を行います。そして、その部屋に入れない身分の家臣が、この二ノ間に待機をしているという設定です。

改修後もこの続き間では正月十一日の儀式の復原展示をする予定です。ただし、広間と二ノ間の上下は逆転させる想定です。史料や間取りを再検討したところ、現在二ノ間と呼んでいる部屋の方がより格上である可能性が濃厚になりました。改修後は解釈の変更に合わせ、この部屋で儀式を行うことになると思います。

◎工藤委員長：この部屋の東側の柱は一間飛ばしになっています。だから庭を見るのに適しています。

○事務局：おっしゃる通りです。当時の大人数で行う儀式は、続き間だけで完結せず、広縁や庭までの範囲で行いました。庭への眺望が良いというのも二ノ間を上座に解釈変更した理由の一つです。

他にも史資料の再検討の結果、いくつかの展示改修を行う必要性が生じています。一つ目は続き間に畳を敷くということです。現在この続き間は板の間ですが、史料を再検討した結果、復原対象年代の糠部にも畳があった可能性が高いことが分かりました。今回の改修に合わせ、続き間にだけは畳を入れたいと思います。また、発掘で出土した金属製品の再調査を行ったところ、派手な建具の引手が見つかりました。主殿内の建具は基本板戸・障子・腰高障子ですが、この続き間境にだけは襖を入れています。この襖の引手も遺物に合わせた形状に変えたいと考えておりますし、引手の意匠に合わせ、襖にも襖絵を入れるなどの変更が必要です。

他に、この部屋では、西壁に押板と床脇を設ける予定です。根城の発掘調査では床飾りに使っただろう陶磁器などが出土しています。また、押板に使うような金具や調度類があることもわかりましたので、主殿内で一番格上のこの部屋の上座には、押板や床脇・床飾りがあっただろうということがわかりました。

・本丸跡 主殿広間

◎事務局：次に参ります。この部屋は現在広間と呼んでいます。現在の復原展示の設定では、主殿内で最も格上の部屋と解釈されており、正月十一日の儀式に参加したメンバーの中でも最も身分の高い八戸家当主や高臣が着座しています。儀式の内容を簡単に説明すると、殿様に新年の挨拶をするために、領内の様々な身分の人達が本丸に集まるという内容です。この儀式では庭に下級の家臣が集合し、弓・馬・鉄砲・ほら貝を披露します。また、庶民の代表も登城し、庭で盃を頂戴します。先ほどもお話しした通り、改修後は続き間の上下を入れ替えますので、当主や家臣の人形は先ほどご紹介した現在二ノ間と呼んでいる部屋に移動します。これら儀式の内容についても研究が進み、料理のメニューや器が間違っていることが明らかに

なりました。今回の改修に合わせ、これらの更新を予定しています。

また、ご覧いただければわかる通り、家臣の人形が着ている衣装が日焼けし、退色しています。30年前の当初復原時は赤い色でしたが、現在は茶色になっています。ワーキング会議にご出席いただいている服飾史の先生からは、家臣が素襖を着て正装をするのは妥当だが、全部が同じ色の素襖を着るのはおかしいというご指摘もいただいています。今回の改修に合わせ、家臣の衣装は更新したいと考えています。

○北野委員：部屋が暗いように思いますが、照明の更新や追加はしますか。

◎事務局：展示改修に先立ち、照明は蛍光灯からLEDへ更新する予定です。照明を増やすことは考えておりません。

○北野委員：今は照明が直接見えるようになっていますが、他の所だと部材の裏側に隠すとか、見えないようにする場合が多いですね。それに間接照明のようなやり方もあると思います。

◎事務局：ありがとうございます。細部の収まりについても検討いたします。

・本丸跡 主殿重宝ノ間

◎事務局：こちらの部屋は現在解説空間として利用しています。改修後も同様に解説空間として利用する想定です。現在の解説は、根城の発掘調査でどのような成果があったのかや、復原整備時の検討などのことについて触れています。近年整備された遺跡では、研究史や復原整備時の検討自体を解説に組み込むことが多いです。ただ、30年前に同様の解説を行う遺跡は殆どありませんでした。そう考えると、この当初整備の解説は当時としては先進的な内容だったと思います。

○北野委員：たしかに先進的です。そして、今はそれが求められています。

◎事務局：そうですね。現在の遺跡整備では調査成果や復元検討の内容、あるいは研究史を重要視するようになっていきます。改修後のこの部屋の解説でもその視点は活かしていきたいと思っています。また、他にも近世・近代の根城顕彰史などについても解説が必要だと考えています。

○北野委員：根城では今回の改修で、見える場所にも耐震補強をするのでしょうか。今年の9月にオープンした二条城本丸御殿は、わざと鉄骨の柱が見えるように補強しています。補強をするにしても、それを無理に隠す必要はないと思います。

◎事務局：令和4年に行った耐震診断で、主殿には十分な耐力があることがわかりました。耐震補強は小屋裏など見え隠れで行う程度で十分なようです。今回の改修工事では、柱や壁の追加までは考えておりません。

文化財建造物の耐震補強に関する考え方は変わりましたよね。以前は見え隠れに収まるようにするのだという考え方が一般的でしたが、最近是一目見て現代材料によ

る補強だとわかるならば、見えてしまっても良いという風潮です。

○北野委員：そうですね。見える方が安心感もありますしね。明らかに補強のために入れたものだとわかるなら、見えてしまっても良いという考え方ですね。

・本丸跡 主殿祈祷ノ間

◎事務局：この部屋は祈祷の間と呼んでいる部屋です。現在は、八戸家の祈願寺であった東善寺の住職が加持や祈祷を行ったという設定で復原展示をしています。しかし史料を再検討した結果、復原するには根拠性に乏しい弱い内容でしたので、改修後はこの復原展示を撤去し、活用のための空間に変更します。

具体的内容は検討中ですが、平時は当館と地元の高校の共同研究で作成した中世の衣装を展示したりするような部屋にしたいと考えています。また現在、指定管理者は、独自の企画として郷土民具作りの体験講座などを行っていますが、このような活用イベントの会場としてもこの部屋を使いたいと考えています。

○北野委員：戸は閉めた状態にするけれど、お客さんは入室できるということでしょうか。

◎事務局：通路に面する西側と北側の中央一間の建具は外し、屋内にあるものが見える状況にしたいと考えています。屋内が見えると、自ずとこの部屋には入ることが出来ると理解していただけたらと考えました。

○北野委員：さきほどお話しした二条城では、空調が効いた部屋を設けています。二条城は真夏でも雨戸を閉めているので、35℃程度になります。あまりに暑いので、管理スタッフと来場者が休むためにも冷房の効いた部屋が必要だと考えたようです。

◎事務局：根城の場合、夏は側周りの建具を開けているので、高温にはなりません。ただ、冬は寒いので、暖房は必要なのかもしれません。また、来場者の中には主殿の中にもベンチや休憩できるところが欲しいという方もいます。

○北野委員：活用にも使うなら、そういう部屋があっても良いのかもしれません。

◎事務局：検討します。

・本丸跡 板塀 13

◎事務局：この板塀はもう自立できないので、表裏に控えを建てています。

○北野委員：柱の上がやられていますね。こういうところからやられるのですね。

◎事務局：笠木を柱頭で継ぐので、柱頭の本口から水が入り腐朽します。今後、塀の改修を行う際は、笠木に銅板を葺くのが適当なのかもしれません。それと、下の方では地覆と柱の取り付け部分がやられます。雪が入るので、ここから腐ります。

○北野委員：下の収まりも色々試してみれば良いと思います。

◎事 務 局 :あるいは地覆自体を無くしても良いのかもしれませんが。

・本丸跡 北法面貯水槽

◎事 務 局 :次にご案内するのは今年度の工事についてです。今年度は、本丸防災設備工事の二年目として貯水槽改修工事を行います。この本丸北側の法面に土山がありますが、この中に既存の浄化槽と貯水槽がございます。今年の工事ではこのうちの貯水槽を解体し、より大きい容量のものに交換します。文化財建造物の防火基準が変更になり、消火設備に求められる放水量と放水時間に変更になりました。これを満たすためには水槽をより大型のものに変えなければいけないという理由からこの工事を実施します。工事に合わせ、周辺のスギも伐採します。

・本丸跡 工房付近から西ノ沢を望む

◎事 務 局 :史跡の西端にあたる西ノ沢と呼んでいる地域です。会議中にもご報告しましたが、今年の8月に、あの斜面に生えている高木が二本倒木しました。民家が接する地域なので、早めに伐採を行いたいと考えています。

○倉 原 委 員 :この地区のの木は今までなにもしていないのでしょうか。

◎事 務 局 :平成10年代に一度間伐と剪定をしています。ただ、広葉樹ということもあり成長が早く、すぐに高木化してしまいました。

・本丸跡 工房付近の消火栓設備

◎事 務 局 :こちらが昨年の防災設備工事で新調した消火栓設備です。現在、夜間の警備員は一名ですが、改修前の消火栓設備は一人では取り回しが難しいものでした。改修後の消火栓設備は一人でも操作できるものです。

・本丸跡 主殿屋根

◎事 務 局 :主殿の屋根の状況はご覧の通りです。見え隠れに銅板が入っている谷や棟の葺板は健全ですが、銅板が入っていない平らな部分の板が崩れています。

○北 野 委 員 :今回の改修も板葺きでやるのでしょうか。樹種も当初工事と同じで、見え隠れにルーフィングを入れるだけの変更でしょうか。

◎事 務 局 :当初工事の葺材はサワラ赤身ですが、これは変更します。理由は二つあります。一つは、単純に国内でもうサワラが取れなくなっているということです。国内ではサワラが枯渇しているので、文化財の板葺建物であってもサワラは使っていません。スギの赤身で代用することを文化庁も認めているようです。根城では令和3年に中馬屋の屋根改修をしましたが、このタイミングで葺材をスギに変えてい

ます。もう一つの理由は、八戸にはサワラが生えないということです。サワラの北限は花巻市あたりです。そう考えると中世の根城本丸でサワラを使っていたとは考えにくいです。当時の葺材もスギであったと考えるのが妥当です。

○北野委員：わかりました。ルーフィング以外にも長寿命化のためになにか工夫が出来ないか考えてみて下さい。

◎事務局：承知しました。

・本丸跡 納屋3

◎事務局：今年度工事をしている納屋3と呼んでいる堅穴建物です。この建物は令和4年度に三和土改修を目的に工事着手しました。しかし、三和土を解体してみたところ、想定以上に柱が腐朽していることが分かり、工事を中断しました。今年度、再開した工事の内容は腐朽した柱下部の切断と根継、柱地際の銅板巻き、仕上げの三和土塗りです。工事に際しては宮野委員からも指導をいただきました。

○北野委員：茅葺きに不具合はありませんか。

◎事務局：細かな老朽はありますが、雨漏りなどはありません。

○北野委員：余裕があるなら、この建物にもデータロガー入れてみて下さい。

◎事務局：ロガーは5台購入しましたが、そのうちの1台は鍛冶工房と呼んでいる堅穴建物に設置しました。同じ堅穴建物でも、あちらの方が深く、また復原展示もあるので、どのような環境なのかを知りたいと考えました。

○北野委員：おもしろいですね。委員会のときにもデータがあったら見たいです。

◎事務局：承知しました。

・本丸跡 獣害

○倉原委員：モグラの被害はもうなくなりましたか。

◎事務局：本丸を中心にモグラが嫌いな音を出す機械を設置したところ、その周囲に関しては被害が無くなりました。

・次回会議

◎事務局：次回会議は来年2月を予定しております。

以上